

高校進学選択の幅を広げる公共交通の整備と利用促進策 ～岐阜県飛騨市での取組を例に～

発表者：名古屋大学大学院環境学研究科：松原 光也 飛騨市役所 総務部総務課：堀辺 洸介
RYDE株式会社：杉崎 正哉、服部 吉高

1. 飛騨市と名古屋大学との連携協定

飛騨市の紹介

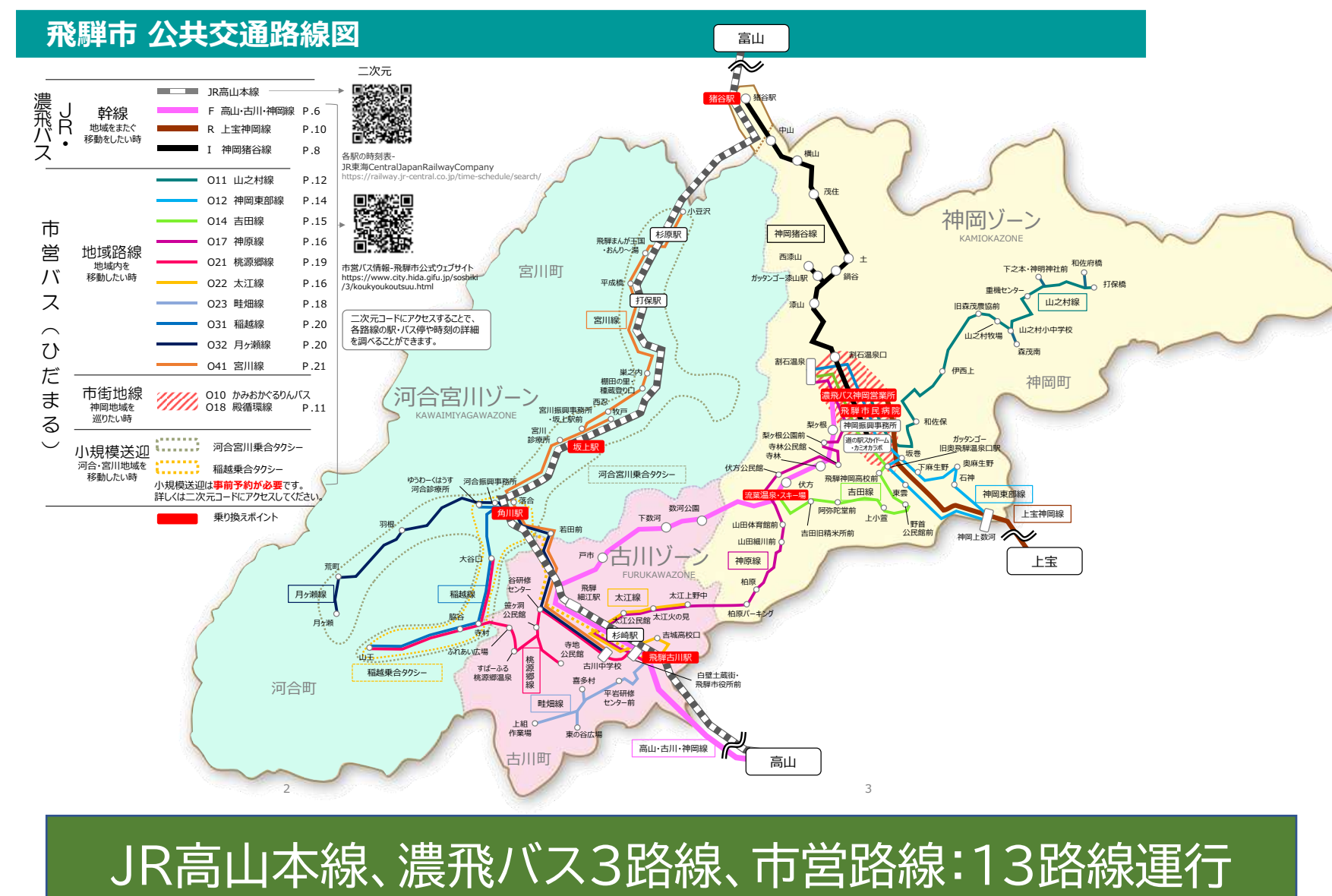
平成16年2月に2町2村(古川町、神岡町、河合村、宮川村)が合併し飛騨市が誕生。岐阜県の最北端に位置し、土地の93%を森林が占めている。

○人口・高齢化率(R5.7.1現在)
面積・・・ 792.53km²
人口・・・ 22,067人
高齢率・・・ 39.96%

名古屋大学との連携協定

2022年1月17日 飛騨市における地域公共交通の利便性向上に向けた連携協定を締結。
2022年4月1日 連携協定に基づく飛騨市地域公共交通研究業務を同大学へ委託

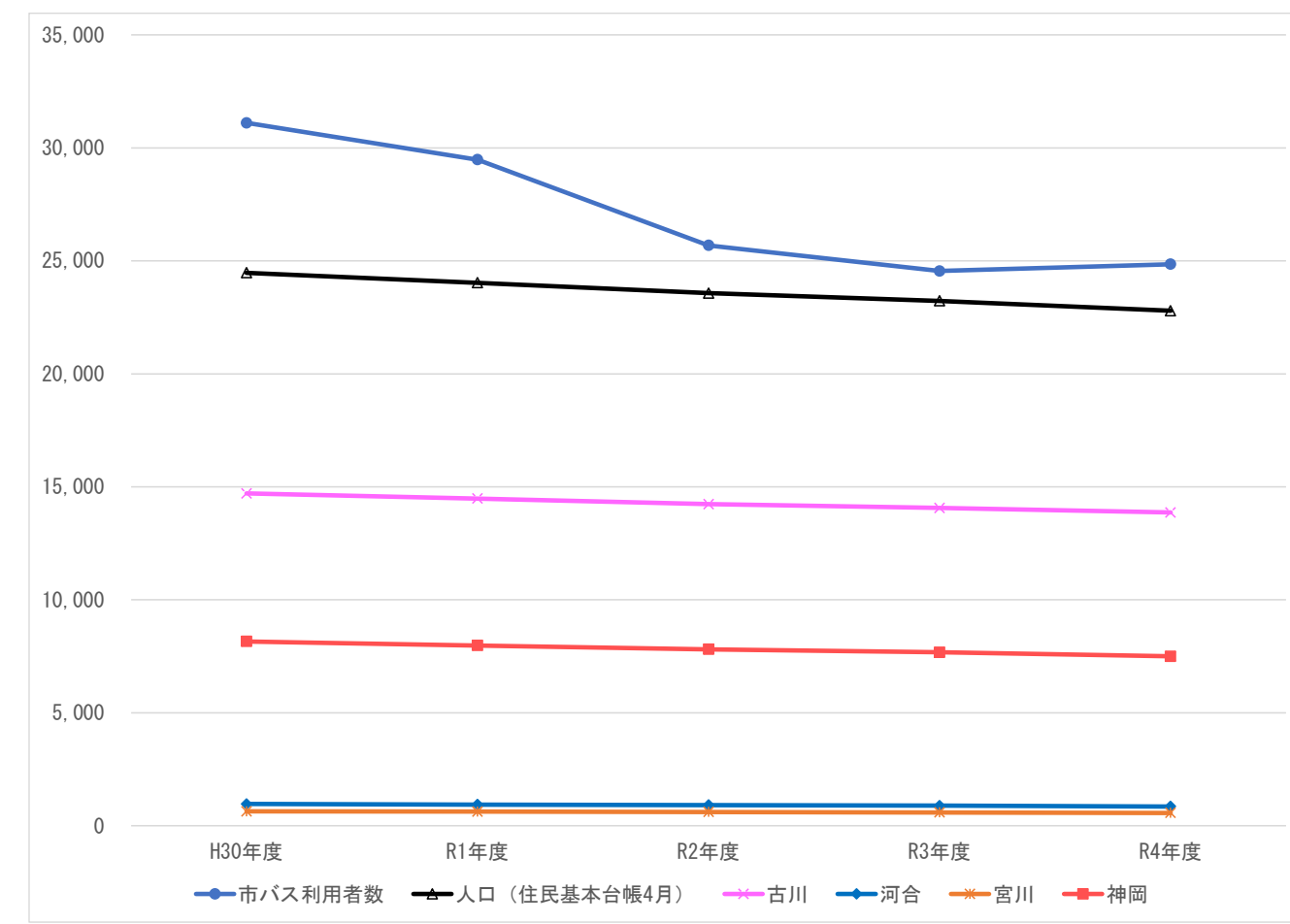
⇒名古屋大学環境学研究科研究員が毎月1週間飛騨市に滞在し、公共交通の調査及び政策支援を実施
・飛騨市の公共交通担当職員を年に数回、名古屋大学へ派遣し公共交通に関する知見の習得を図る



2. 課題と現状調査

公共交通の課題

- ・バスの時刻をWEBで検索できない
- ・HPに時刻表が載っているが、情報提供の問題
- ・1便あたりの平均乗車人数が1人を切る路線もある
- ・路線の存続が危ぶまれる状態に(1.1人/年・人口)
- ・路線間の乗り継ぎの利便性が低い
- ・乗り継ぎ拠点が整備されていない
- ・公共交通で通学できない地域がある



通学調査・病院調査

吉城高校通学調査

人数	130	47	78	255
割合(%)	51.0	18.4	30.6	

飛騨神岡高校通学調査

人数	35	1	50	49	135
割合(%)	25.9	0.7	37.0	36.3	

両高とも坂の上に学校があり、バスによる通学は3割程度、吉城高校はバス停からもさらに坂を上がる必要がある。飛騨神岡高校は市街地から離れており、その分徒歩が少なく、送迎が増える

3. 飛騨市地域公共交通計画に基づく施策

実施項目	施策	事業	番号	区分、進捗	令和4年度 実施計画		
1 地域公共交通の運用・その他の移動手段の支援	地域公共交通の運用	・地域公共交通の運用	①	新規、実施中	・バスアナウンス&乗降記録システムの導入準備		
	その他の移動手段の支援	・地域公共交通網を補完する移動手段の創出及び維持に対する支援	②	継続、実施済	・貨客混載		
	交通結節点の整備・維持	・利用環境の利便性向上 待合所・ベンチなどの設置 バスの更新 等	③	新規、準備中	・市内全域路線図看板の設置準備		
	企画乗車券の発行	・ひだまる定期券、1日乗車券、シルバー1日定期券、回数券等の発行	④	新規、実施済	・電子チケットの導入		
	車両の更新と整備	・利便性を高める車両の導入 ・ラッピング等のデザイン	⑤	継続、未実施	・車両更新(令和5年度以降)		
	2 利便性の向上	地域公共交通の基本的な情報提供	・総合地域公共交通マップの発行	⑧	新規、実施済	・飛騨市地域公共交通路線図及び時刻表のリニューアル	
		日中利用の促進	利用していない市民に対する利用促進	・市の広報、集会等での協働による、地域公共交通の必要性についての啓蒙啓発 ・市民と協働したイベントの開催(市民バスツアー、セミナー等) ・免許返納者へのインセンティブの付与	⑪	新規、実施済	・地域公共交通タウンミーティングの開催 ・飛騨市職員対象「地域公共交通の日」 ・ひだまはたらくる「まほろ」の出版
			利用している市民に対する利用促進	・目的地施設と連携した企画チケット等の検討 ・市民と協働した利用促進の検討	⑫	継続、実施済	・高齢者対象いきいき券でバス利用可能 ・通院支援タクシー助成 ・チケット付加サービス、協力企業の募集の推進
			通学利用の促進	・中高生とその保護者に対する説明会の実施	⑬	継続、実施済	・高校1日体験通学時のバス無料配布
			未訪者に対する地域公共交通情報の提供	・系統番号・路線番号・カラーリングの導入	⑭	継続、実施済	・路線カラーリングの見直し
観光客向けの情報提供			・観光客が利用しやすい停留所への改良(名称、設置場所等)	⑮	新規、実施中	・多言語表記の案内表示、パンフレット作成の推進	
市民・事業者等の自主的な取り組みの支援			・観光客向け時刻表・パンフレットの制作	⑯	継続、実施済	・観光客向けの広報	
4 評価・改善			地域公共交通における評価・検証の実施	・市民や事業者等が主導して行う地域公共交通利便性調査の実施 ・市民アンケート調査 ・運行状況等の点検 等	⑲	新規、実施済	・住民意見交換会の開催
			継続的な市民参加の仕組みづくり	・住民意見交換会による運行改善に関する協議	⑳	新規、実施中	・利用実績の地域へのフィードバック
		先進的な手法や技術の導入検討	・先進技術に関する情報の収集 ・他自治体の好事例の研究	㉑	継続、実施済	・他自治体への視察、意見交換	

4. 利用促進策

中高生への利用促進

飛騨地域(高山市・飛騨市)にて毎年10月上旬に開催される中学3年生対象の高校1日体験入学において、対象者にバス無料券、案内パンフレットを配布し、バス通学を体験してもらうことで進路選択や通学方法を考えてもらう取組を実施。

お試し通学無料券の配布
家から高校(高山市内の高校も利用可)までの往復分

バスや鉄道で通学するメリットとは・・・??

バスや鉄道での移動中は、友達とおしゃべりはもちろん、読書や音楽鑑賞、スマホ操作など、その時間を自分のペースで有効に活用でき、天候や季節を問わず、安全で快適に過ごすことができます。また、毎日決まった時刻のバスや鉄道を利用することで、自然と規則正しい生活習慣が身に付くというメリットもあります。社会人や高校の生徒等に囲まれる通学は、ちょっと大人になった気分ですね!

バスで通学するメリットとして、「出会いの場となる」といった中高生ならではの視点でPR

SNSでシェアしてみよう! / テスト勉強の追い込みだ! / いつも同じバスのあの人も素敵だなぁ / 遅刻不足はバスで解消しよう!

案内パンフレットの一部

R3			R4		
配布人数	利用延べ人数	利用率	配布人数	利用延べ人数	利用率
175名	46名	26.2%	172名	88名	51.1%

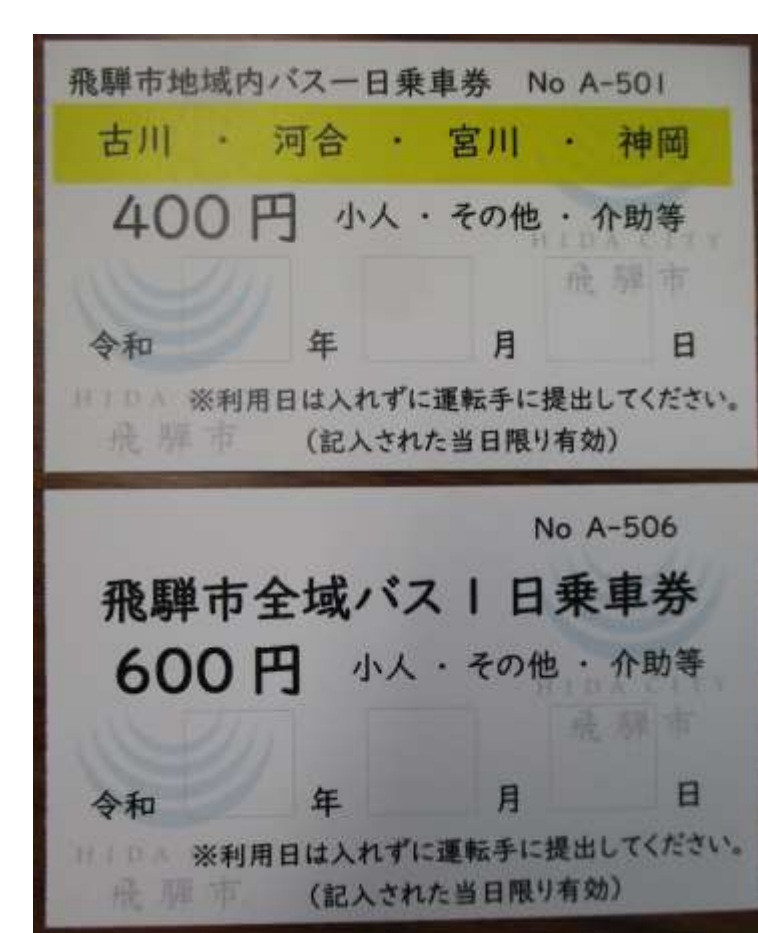
- ・Googleマップでの検索が可能になったことにより家からの経路がわかるようになった。
- ・F古川神岡線のR41バイパス系統の新設により、飛騨高山高校、高山西高校のアクセス性向上。

【市職員対象】ノーマイカーデーの実施

マイカーでの通勤を控える日として、毎月第4金曜日をノーマイカーデーとして定め、徒歩や自転車、公共交通機関、同僚や家族との乗り合わせによる通勤を推進。毎月約1割の職員が協力している。(正職員数:約450名)



1日乗車券とRYDEPASS



1日乗車券

ゾーン内の移動
1回乗車200円区間→400円
ゾーンをまたいだ移動
1回乗車300円区間→600円

ひだまるバス(市営バス)と濃飛バス両方使える

ただし、車内では買えない
市役所や振興事務所、濃飛バス営業所、市民病院のみ購入可

2023年 12月12日 電子チケット RYDEパス 運用開始

スマホで飛騨市バスの1日乗車券が購入可能に

企画乗車券のイメージ
飛騨市公共交通会議

飛騨市全域または飛騨市各町内を、デジタルチケットとして運用できます。

身体障害者手帳をお持ちの方はその介助人の別は別引当りでご利用できます。

購入後は、利用可能なチケットメニューの中から選びます。

ご利用方法は、チケット画面を業務用「見えるだけ」です。

デジタルチケットの表示している位置情報を収集することができ、どこに行くために利用されているのが把握できる。

【現在の利用傾向】
⇒地元の住民が、市内入浴施設へ行くために利用されている。

利用傾向の把握により、目的施設とコラボしたアプローチが可能に。

周知手法別の効果検証のため、広報を段階的に実施